

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 教育目標

- 確かな学力を身につけ、主体的に学び考えることのできる知的探究心にあふれた人間を育成する
- 心も体も健全でたくましく、社会の担い手にふさわしい知性と品格を身につけた心豊かな人間を育成する
- グローバル社会における文化の多様性を理解し、世界を視野に幅広く活躍できる人間を育成する

### 2 中期的目標

- 1 進路指導力とそれに結びつく教科指導力の強化
- 2 立命館コースの教育体制の確立
- 3 中高一貫体制を支える教員集団づくり
- 4 国際教育の推進
- 5 さらなる生徒指導体制の強化
- 6 地域社会の需要を見据えた生徒募集体制の再構築

### 3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>①高校立命館コースについては英語において GTEC のスコアが経年で伸長してきた。英語科による長期的指導が功を奏してきた。</p> <p>②新たに立命館教育推進部として組織的に企画・運営を行った。校内で定期的な協議を実施し、立命館の人的資源と施設の活用が活発になった。</p> <p>③教育方法の改善として、アクティブラーニングと ICT 導入を図ることができた。これは一部の教員だけでなくすべての教員が身につけなければならない方法であることが明確となった。</p> <p>④ネイティブ教員が英語授業だけでなく国際プログラムにも主体的に関わるようになった。英語常勤教員の雇用の道を開くことができた。</p> <p>⑤生徒募集において昨年度の反省に立ち、校内での情報交換と課題の明確化を行い、一定の成果が出た。これは PDCA サイクルを業務において導入したからだと思われる。</p>	<p>①委員会の体制 登美丘南校区自治連合協議会会長 学立命館 常務理事 立命館大学教授 中学校・高等学校保護者会役員</p> <p>②委員会の実施日 平成 28 年 12 月 21 日 (水) 平成 29 年 3 月 24 日 (金)</p> <p>③自己評価の結果に対する評価 ・国際プログラムや授業改善が大変充実しているため、これらの内容の外部への発信を積極的にしていくのがよい。 ・先生の熱意が非常に大切である。私学としての特色を持つことにより初芝立命館へ行きたい生徒が増えることを望む。</p>

### 4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 進路指導力と教科指導力	(1) グローバルコースにおける学力と進学実績の向上	(1) ① 大学進学希望者への情報提供の充実  ② 国公立大学進学希望者向けの特化した指導の強化	(1) ① 国公立大学 10 関関同立 30 産近甲龍 70 ② センター試験受験者数の増加 合計 100 名	(1) ① 国公立大学 7 関関同立 17 産近甲龍 68 ② センター試験受験者は昨年 75 名であったが今年は 102 名	(1) ・高校グローバルコースの教育課程の見直し
	(2) 教育方法の改善と教員の指導力向上	(2) ① 授業改善と ICT の活用	(2) ① 各教科によるアクティブラーニング導入の公開授業の実施	(2) ① 5 教科において公開授業を計画的に実施した	(2) ・中学全教員の ICT 活用の徹底
2 立命館コース教育体制の確立	(1) 立命館コースの教育内容充実	(1) ① 立命館コースの学力向上 英語教育 (TOEFL, TOEIC) と理数科教育の強化  ② 特色教育の充実 「課題研究」の導入と 3 年間を通じた特色教育の検討  ③ 組織体制の整備 立命館コース職員室における教員の常駐	(1) ① 立命館一貫教育部主催の TOEFL551 プログラムやダブリンシティ大学 (DCU) 留学プログラムへの生徒の参加 ・入学前数学理科講座の実施 ② 中学 3 年次における小論文コンテストの実施 ③ 立命館コースの運営体制を立命館教育推進部の改称と、担当者の定例会議を開催	(1) ① TOEFL551 プログラム参加者 44 名 DCU プログラム参加者 3 名 理系学部進学者対象で、数学、生物、化学の補講を実施 ② 立命館大学大阪いばらきキャンパス (OIC) を会場にして論文についてプレゼンテーションを実施 ③ 立命館一貫教育部との協議、大阪初芝学園本部との協議、立命館コース担当者との会議を定例化して開催し、組織的な企画運営ができた。	(1) ・理科数学の学力向上のためのプログラムの導入 ・理科教員指導力向上のための研修の実施
3 中高一貫教育	(1) 中高一貫教育の充実 ① アドバンスト立命館 (AR) コースの 6 年一貫教育の検討 ② 中高一貫教育の在り方検討	(1) ① 高等学校における新コースとしての教育内容の研究 ② 立命館コースの中学・高校 6 年一貫教育の枠組みの編成	(1) ① 教育課程原案の作成 ② 高校立命館コース S クラスの編成	(1) ① 高校アドバンスト英数コースとして教育課程原案を作成した ② 立命館コースの、「課題研究」に取り組む高校理系クラスを平成 29 年度 1 年生に設置	(1) ・高校立命館コース S クラス教育内容の確立
進 4 国際教育の推進	(1) 英語国際教育の推進 ① ネイティブ教員の活用 ② 英語国際プログラムの促進	(1) ① 国際プログラム、生徒募集行事における生徒との交流促進 ② 校内プログラムの参加拡大と附属校プログラムの活用	(1) ① chatroom の開催と塾主催イベントへの参加 ② オーストラリア、ニュージーランドプログラ	(1) ① 水曜日昼休みに開講。高校の留学生も参加 ② 周到な事前研修の後、実施 ・OIC 国際学生も交えた英語国際	(1) ・英語教育と国際プログラムの連携強化の発信 ・常勤ネイティ

			ムを高校、中学にて実施 ・大阪府留学支援奨学金(高校)を申請	プログラムを実施 ・附属校 TOEFL551 プログラムへの高校3年生の参加 44名 ・グローバルリーダーシッププログラムで奨学金を活用 20名 トビタテ留学ジャパンに高校生が選ばれる 2名	ブ教員の活用 ・オンライン英会話システムの導入
5 生徒指導体制の強化	(1) 基本的な生活習慣の確立	(1) ①遅刻指導 ②朝の読書指導 ③身だしなみ挨拶指導	(1) ①中学前年度 589件以下 高校前年度 2613件以下 ②全クラス定着 ③登下校指導	(1) ①中学 438件 150件以上減少 高校 2300件 300件以上減少 ②高校の一部のクラスにおいて徹底できず、80%の定着 ③生徒による挨拶指導が地域に好評であった。	(1) ・生徒による挨拶指導の年間を通じた継続と拡大
	(2) 学年団と執行部との情報交換	(2) ①情報共有を目的とした学年主任会議の定期的開催	(2) ①朝の読書、身だしなみ指導の実施 ②成績の分析と課題についての共有	(2) ①2学期になってからの開催となり、早めの対策できず ②教科としての弱点が明確になった	(2) ・1学期から各学年と課題共有のための会議の開催
6 生徒募集体制の再構築	(1) 生徒確保に向けた入試業務の強化	(1) ①中学・高校別の塾訪問の強化と最新の情報に基づいた入試部業務の推進 ②別会場受験など入試方法と連動した広報活動の展開 ③正確なデータ分析に基づく広報活動に向けた、部内での情報処理の効率化 ④PDCAを取り入れた入試業務の管理	(1) ①中学入学目標 120 高校入学目標 380 ②塾訪問件数目標 1200 ③参加者アンケートの導入と入力業務の推進 ④執行部との定例会議開催による課題確認	(1) ① 中学入学者 89 高校入学者 393 中学入試では目標達成できず課題を残したが高校入試では募集が成功した ②塾訪問件数 1400 ③参加者アンケートの分析はできたが入力業務は未完 ④月1回の会議を実施し、随時、課題に対処できた	(1) ・中学入試において新たな選抜方式の導入 ・高校新コースを中心とした広報 ・中学英語教育を焦点とした広報